かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第１６号（平成３１年２月）

あゆむ「おほっ、今日はお城だ。こんな寒い雪の日は、こういうところにかぎる。」

ミドリ「新しくなった白い壁と、グレーの屋根瓦。それに、金色に輝くしゃちほこ。舞い散る雪の中で、神々しく立っているわ。冬のお城もきれいね！」

あゆむ「いいこと言うね！」

ふみお「城の改修では、確か新しくする瓦は 11 万枚だったかな。我が家でも寄附をした。」

あゆむ「それでパスポートをもらって、無料なんだ。」

文じい「ふむ。前に、工事をしているところをじっと見たことがあったんじゃが、瓦を一枚一枚実に丁寧に葺いておった。」

あゆむ「ここに城の説明板がある。」

ミドリ「“上山城の沿革”は、えんかくと読むのかしら。まず、これがお城の説明ね。」

ふみお「城の歴史ということだね。」

あゆむ「いろいろ書いてあるけど、現在のお城は、昭和 57 年とある。説明のものがもっと並んでいる。」

ミドリ「そうね。でも、なんだか寒くなってきたわ。中に入らない？ そして、今日はえーと何だったかな。」

文じい「そうじゃの。城のくわしいことやほかの説明はまた次に来た時に見てみよう。城は、“郷土資料館”となっており学ぶべきものがたくさんある。それで今日は、“山内典子遺言書” じゃ。」

やまのうちかねこ
山内典子
ゆいごんしょ
遺言書

ミドリ「遺言書って、亡くなる前に言い残すことを書いたものね。そんなものがあるの？」

文じい「まず、とにかく見せてもらおう。前もって申し込んでおる。」

ミドリ「あら、典子でカネコともよんだのね。どういう人なのかな？」

あゆむ「うへえ、全然読めない！」

文じい「こういう古い書き物は、古文書といって、勉強して慣れないと読めない。」

ミドリ「だれに向けて、何て書いてあるの？」

文じい「これは、山内典子が弟の藤井松平信庸に宛てた遺言書じゃ。」

ふみお「あれ、信庸という人は、上山藩の藩主じゃなかった？」

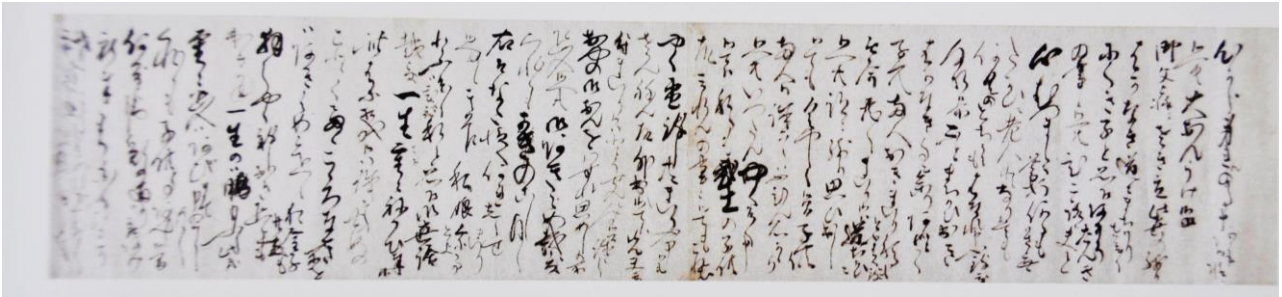
ミドリ「え、藩主ということはお殿様？ じゃあ、典子という人は、殿様のお姉さん？」

あゆむ「そのお姉さんの典子さんは、山内さんにお嫁にいったんだな。」

文じい「ふむ、その通りじゃ。」

ミドリ「なんだかますますこの中身が知りたくなってきたわ。」

文じい「お父上様に先立つ不孝をお詫びしている。そして、二人の子ども（くに・とよ）のことがふびんで心がかりなのですが、どうぞどうぞお引き取り、私と思ってお世話戴き度、



「山内典子遺言書」（上山市所有・上山城寄託）　　＊『上山藩 藤井松平氏の系譜』（公益財団法人上山城郷土資料館）より転写

一生重々お願い申し上げます。とある。」

ミドリ　「普通の亡くなり方ではなかったみたいね。」

ふみお「そうだな、だがまてよ、遺言書というのは、ふつうは山内の家族に宛てて書くんじゃない？　それなのに、弟にということは…、家族に何かがあったんだな。」

文じい「ふむ、“ふとまちがいが出来”てとある。」

ふみお「“まちがい”？　夫の山内はどうしたの？」

文じい「亡くなったのは、明治元年（慶應四年）戊辰正月十四日じゃ。」

ふみお「えっ。それって大変な時期だよね。幕府軍と新政府軍との戦いのころだよ。」

文じい「その通り。正月三日、その戦いが鳥羽伏見で起こった。幕府側はあまり本気でない状態のまま思わぬ敗戦となってしまった。将軍徳川慶喜は江戸へ逃げ戻った。」

あゆむ「へえ、なさけないな。でも、それがこれと何か関係あるの？」

文じい「実は、慶喜から、典子の夫山内豊福が江戸城に呼ばれた。そして、土佐の宗家（本家）山内家の進めにしたがって大政奉還（政治の実権を返すこと）をしたが、土佐は新政府側について、こちらは賊軍にさせられて負けてしまった、と激しく責められた。」

ふみお「ははあ、それで責任取って…。」

文じい「そう。豊福は土佐山内家の分家土佐新田藩主で、宗家の代理として城に上がった。ところが、周りの厳しい空気にいたたまれなくなって城から戻った。そして、屠腹（切腹）して謝るしかないと妻に話した。」

ミドリ「え、もしかしたら妻の典子までいっしょに？」

文じい「ふむ、まさしくそうなったんじゃ。豊福侯は33才、典子様は28才。残された邦子姫は6才、豊子姫は4才であった。」

ミドリ「ええっ！　かわいそう！　それで、その後どうなったの？」

文じい「姫君たちは、藤井松平家ではなく、山内宗家の方に引き取られた。」

ふみお「上山藩も戦いに巻き込まれるんだよね。」

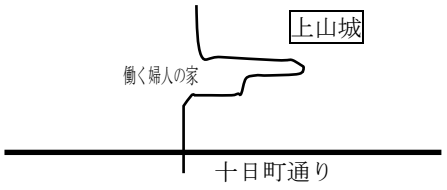
文じい「そう、東北の藩は、新政府軍に反発して“奥羽列藩同盟”を結んで戦った。しかし、もともと自分たちから戦おうとしたものではなかった。犠牲者を出しながら、やがて、降伏の道を選ぶ。」

ミドリ「信庸侯はその時の殿様ね。自分や藩の運命がどうなるのかという混乱の中で、さぞ心配なことだったでしょうね。それで、二人の姫様たちはどうなったの？」

文じい「邦姫さまは筑後三池藩主立花寛治子爵に、豊姫さまは信州上田藩主松平忠礼子爵にお輿入れ（嫁入り）された。」

ふみお「それはよかった。でも、明治維新というけれど、こういう悲劇があちこちにたくさんあったんだよね。」

市指定文化財「山内典子遺言書」（「上山城」）



発行：　上山市教育委員会生涯学習課文化財・文化芸術係　　電話　023-672-1111（内線 314）